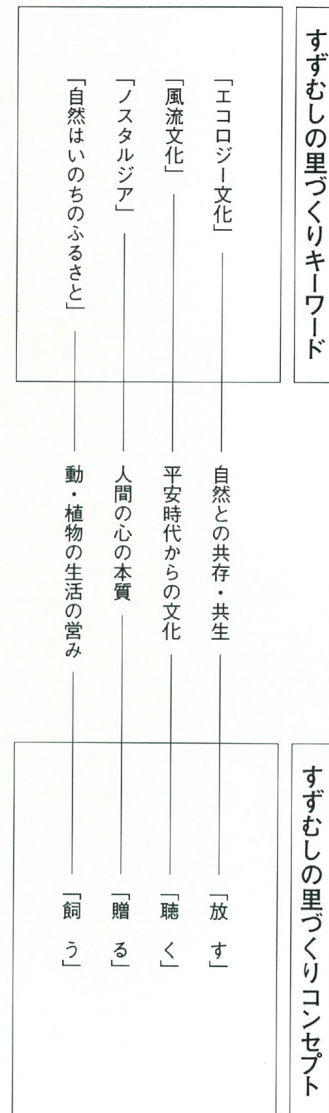




宮城野区 すずむしの里づくり事業計画（要約） 里づくり基本理念

これからの新しい時代（21世紀）は、有効な自然資源を将来にわたり保全できる持続的発展のあり方が都市に求められ、人々の価値観は、物より心を大切にするという、内面から生活の豊かさを実感できるものへの欲求が予想されます。そこで、新しい時代の到来を直視し、「すずむしの里づくり」の目標年次を西暦2001年に設定しながら「自然とのふれあいのできる里づくり・自然と対話のできる里づくり」を基本理念としました。



4つの環境づくり

●放す環境づくり

スズムシはどのような自然条件の環境において生息しているかを明確にすることからはじめ、宮城野区における生息適地の環境調査、実験的な放虫を試みながらの生態観察、追跡調査を行うなど、スズムシが生息し続けられる地域シンボルづくりのための地道な調査研究活動の展開が必要です。

●聴く環境づくり

「自然とのふれあい・自然と対話のできる」候補地を設定し、スズムシを媒介とした文化の香りあるコミュニケーションの場づくりを試みます。また、一般家庭の縁側・庭先、商店街の店の軒先、小公園や自然に生息する平地や低い山地、スズムシ列車や公的施設のロビーなど、宮城野区の至るところで、音の原風景とノスタルジアの思いを感じてもらうことをめざします。

●贈る環境づくり

スズムシに興味や関心を持ってもらい、スズムシを学び、考え、スズムシを愛し、ひいてはスズムシを媒介として新しい人との出会いが楽しめるように、さまざまな場所や施設に、また、より多くの人にスズムシを贈り、スズムシコミュニケーションの輪を拡げていくことが必要です。

●飼う環境づくり

自然で育てる環境は、放す環境づくりと関連しますが、今後の研究課題を整理しながら、一步一步実現にむけて努力していきます。人工的に飼育する環境は、飼育場所、餌の供給、世話をする人、繁殖のためのスズムシ交換のネットワークづくり等の課題に取り組みながらスズムシ博物館建設などを目標にその実現をめざします。